

# 日本語母語話者及び日本語学習者による動詞中止形の使用状況 —「YNU書き言葉コーパス」の調査を通じて—

宮崎 聡子

## 1. はじめに

動詞述語の中止形には、いわゆる連用形とテ形の二つの形式がある。

(1) 駅前に白いビルが {あり/あって}、その1階に銀行がある。

(日本語記述文法研究会編 2008, p.280)

両者の用法の違いについて、日本語記述文法研究会編(2008)では、並列および継起を表す場合は、テ形・連用形ともに用いられるが、原因・理由を表す場合にはテ形の方が用いられやすいこと、また付帯状況を表す場合はテ形が用いられ、連用形では継起の意味が強くなるといったことが指摘されている。さらに文体的な違いに関して、連用形もテ形もどちらも、話しことば・書きことばの両方で用いられるが、話しことばではテ形の方が好まれることにも言及されている。

日本語教育においては、この二形式については、主に中級レベルでの書きことばの指導の際に取り上げられる。そこでは、日本語の文章のスタイル(文体)はその文章の種類・内容や読む人に応じて書き分けること、中でも論文では連用中止形がよく使われることなどが指導される(友松2008)。しかし、日本語学習者にとっては、前件・後件との意味関係に加え、文体までも考慮し二形式を使い分けることは、難しいことであることが窺える。

本稿では、日本語母語話者と日本語学習者の両方を対象とした作文コーパスである「日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス」(金澤編2014,以下「YNU書き言葉コーパス」)を用い、ふたつの動詞中止形の運用を計量的に調査・分析することでその使用状況を明らかにしたいと考える。

なお、一般的に、「連用形」、「テ形」という用語が用いられることが多いが、本稿においては、中止という機能を共有していることを重視し、高橋ほか(2005)にならい、例文(1)の「あり」の形を「第1中止形」、「あって」の形を「第2中止形」と呼ぶことにする。

## 2. 先行研究

ここでは、日本語教育的観点からの研究において本稿の調査と関連の深いものとして、田代(1995)、秋口・鄭(2002)、林(2005)を取り上げる。

まず、日本語学習者の第1中止形・第2中止形の使用について調査したものに、田代(1995)、秋口・

鄭 (2002) がある。いずれも、中国語母語話者・韓国語母語話者・日本語母語話者を対象に、作文を書かせて調査を行っている。

田代 (1995) では、中上級日本語学習者の文章表現の不自然さやわかりにくさは何によるものかを解明するために、被調査者 (韓国語・中国語・日本語各母語話者30名) にセリフのない漫画を見せて、300字程度のストーリー説明の作文を書かせ、比較を行っている。その結果、接続助詞類の使用において、日本語母語話者は「て」と連用接続を多く、また組み合わせて使っているのに対し、学習者、特に中国語母語話者に「て」への偏りが見られるとしている。その理由としては、中国語には接続を表す形式なしに文がつかないでいけるため、「て」の使用範囲が母語話者より広いことが考えられることを挙げている。また、韓国語学習者については、「て」に該当する接続表現が存在するために「て」が多用されることが推測されたとしている。

秋口・鄭 (2002) では、被調査者 (中国語母語話者10名、韓国語母語話者20名、日本語母語話者10名) に3分程度の音声のないビデオを見せ、その内容を400字程度の作文にまとめさせている。そして、その中で場面展開の部分を抜粋し、テ形接続の数、視点、日本語母語話者、学習者それぞれに多い表現よりも連用中止形接続といった観点から分析を行っている。このうち、テ形接続について、「日本語母語話者はテ形接続を多く用いるのに対して、学習者は、テ形接続を用いる傾向があった。」(p.53) としている。

林 (2005) は、書きことばにおいてテ形のほうが多く出現するものにはどのようなものがあるかを明らかにするために、学習者が実際に書く機会の多い論述文 (CASTEL/Jの論説文 (講談社) のデータを使用) でのテ形と連用形の使用実態を調査し、テ形の方が多く出現したものを中心に考察結果を提示している。それによると、テ形のほうが多く出現したものは、「A.連用形が一拍のもの」「B.文法的〈機能語〉」「C.付帯状態」「D.機能語的なもの」であるとしている。林氏はテ形・連用形両形の意味・機能的差異に注目し、異なり語数43語対象に動詞を分析し、動詞の違いが両形の使用差にどのように関与しているかという質的な特徴を明らかにしている。

以上、第1中止形・第2中止形の使用については、日本語母語話者に比べて学習者は第1中止形の使用率が低いことが指摘されている。また、書きことばにおいてテ形が多く出現する動詞についても詳細が明らかになっている。本稿では、これらの先行研究を踏まえ、動詞中止形について特に次の点について調査結果を示したいと考える。

- ①先行研究で行われたストーリー説明を含め、多様なジャンルの文章における使用について
- ②読み手の対象の違いによる中止形の現れ方について
- ③学習者のレベルと中止形の使用との相関について

次節3において、これらの調査の対象となる「YNU書き言葉コーパス」について、概要と特徴を述べる。

### 3. 「YNU書き言葉コーパス」について

ここでは、本稿が調査対象として選んだ「YNU書き言葉コーパス」の特徴と、その内容について紹介する。「YNU書き言葉コーパス」とは、「日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス」の通称である。「YNU」とは、横浜国立大学（Yokohama National University）の頭文字であり、同大学の日本人学生、留学生が本コーパス作成のプロジェクトに参加している。

このコーパスの特徴は、「(i) レイティング付きの、(ii) ある程度多数の学習者による、(iii) 各種書き言葉資料を集めた、もの」（金澤編2014, p.3）であるということである。そこには、大学生の日常における「書く」という言語活動に注目し、日本人大学生（30名）と同大学に所属する留学生（韓国語母語話者30名、中国語母語話者30名）を対象にした書き言葉の資料が収められており、その数は、母語別各グループ360編ずつ、計1080編である。留学生の日本語レベルについては、大学の講義を受けることができ、一般的には上級と称されるレベルであるとしている<sup>1)</sup>。

収録されている作文は、12のタスクに基づいており、日常で起こり得るさまざまな「書く」という活動の中から一定の場面を選んで抽出されている。それぞれ、「自発型」か「頼まれ型」か、「読み手」はだれか、「文章の長さ」は長いか否か、などの観点から選定が加えられ、最終的に12種類のタスクが作成されている。タスクの内容は、以下の通りである。

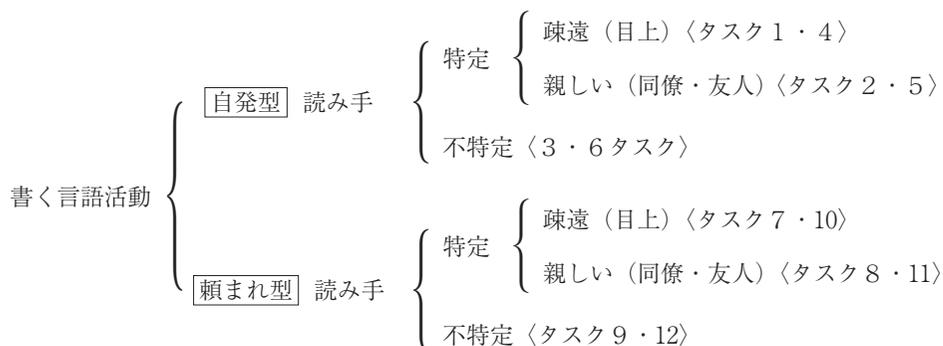
#### 【タスクの内容】

- 〈タスク1〉 面識のない先生に図書を借りる
- 〈タスク2〉 友人に図書を借りる
- 〈タスク3〉 デジカメの販売台数に関するグラフを説明する
- 〈タスク4〉 学長に奨学金増額の必要性を訴える
- 〈タスク5〉 入院中の後輩に励ましの手紙を書く
- 〈タスク6〉 市民病院の閉鎖について投書する
- 〈タスク7〉 ゼミの先生に観光スポット・名物を紹介する
- 〈タスク8〉 先輩に起こった出来事を友人に教える
- 〈タスク9〉 広報紙で国の料理を紹介する
- 〈タスク10〉 先生に早期英語教育についての意見を述べる
- 〈タスク11〉 友人に早期英語教育についての意見を述べる
- 〈タスク12〉 小学生新聞で七夕の物語を紹介する

(金澤編2014, p.53)

以上のタスクを、自発型・頼まれ型、読み手が特定か不特定か、また、疎遠（目上）であるか親しい相手（同僚・友人）であるかといった観点から整理すると、次のような概略図になる。

### 【書く言語活動の分類とタスクの関係】



(同, p.7 一部改編)

学習者は、次のような指示文をもとに作文を書いている。例として <タスク 1> の場合を挙げる。

<タスク 1> 「面識のない先生に図書を借りる」(読み手: 特定・疎(目上)) の指示文

あなたが借りたいと思っている『環境学入門』という本が図書館にはなく、面識のない田中先生の研究室にあることがわかりました。レポートを書くためにはどうしてもその本が必要です。田中先生にそのことをメールでお願いしてください。(母語に翻訳)

以上のように、本コーパスは、日本語母語話者と日本語学習者の両方のデータが量的・質的にも整っており、また、複数のジャンルや、異なった読み手に対する「書く場面」が設定されているため、本稿の目的である、動詞の二つの中止形の使い分けを明らかにする際に、どのような要因が関連するのかを調査するのに適していると考えられる。

## 4. 調査

### 4.1 調査の目的

本調査の目的は、日本語母語話者及び日本語学習者による動詞第1中止形と第2中止形(肯定形)の使用実態をタスク別の作文コーパスから明らかにすることである。

### 4.2 調査方法

「YNU書き言葉コーパス」の全作文を対象に、動詞の第1中止形・第2中止形が現れた文に目視にてタグ付けを行い、集計を行った。今回は肯定形のみを対象とし、「～ないで」「～なくて」「～ず」「～ずに」などの否定形については稿を改めることとする。

動詞の第1中止形と第2中止形が用いられている例としては、具体的には次のようなものがある。

例文末の ( ) 内の情報は、タスク番号、個人番号、母語、を表している。

第1中止形の例：

- (2)a. この度はお伺いしたいことがありメールを送らせていただきました。(task\_01\_J001日本語)
- b. お忙しいところ、大変すみませんが、去年行われた留学生会議のご報告をいたしたいと思い、メールをお送りします。(task\_04\_K006韓国)
- c. 就活と卒論の忙しい時期になり、交通事故に遭って二か月以上入院したら不安になりますものね！(task\_05\_C0047中国)

第2中止形の例：

- (3)a. 今日はお願いがあってメールをしました。(task\_02\_J013日本語)
- b. 図書館にあるのかなあと思って探してみたけどなくてね…。(task\_02\_K0019韓国)
- c. この図を見ると、A社は2006年時は一度最低点になって、今はまた回復する。  
(task\_03\_C0025中国)

ここで、今回調査の対象とした形式について述べておく。日本語記述文法研究会(2008)によると、第1中止形と第2中止形は、用法が重なる部分とそうでない部分がある(pp.287-289)。その記述をもとにまとめると、表1のようになる。例文は日本語記述文法研究会(2008)による。

【表1】第1中止形(連用形)と第2中止形(テ形)の意味・用法

用法	例文	第1中止形 (連用形)	第2中止形 (テ形)
継起	夕食後、シャワーを <u>浴びて/浴び</u> 、歯をみがいた。	○	○
原因・理由	事故の知らせを <u>聞いて/聞き</u> 、びっくりした。	○	○
並列	おじいさんは山へ <u>行って/行き</u> 、おばあさんは川へ行った。	○	○
順接・逆接	<u>歩いて/*歩き</u> 10分かかる。 こんなおいしいお菓子を <u>作って/*作り</u> 売らないとはもったいない。	×	○
付帯状況	<u>立って/*立ち</u> おしゃべりをした。 2人は門の前に <u>立って/立ち</u> 、おしゃべりを続けた。	×	○

集計の際には、両者の用法が重なる並列、継起、原因・理由、付帯状況の一部を対象とした。付帯状況について、「立って/\*立ち 話す」(姿勢)、「歩いて/\*歩き、川をわたる」(手段)のように従属度が高く副詞に近づいているものは、第1中止形に置き換えられない。このようにそもそも第1中止形に置き換えられない第2中止形の用法は、集計に含めなかった。ただし、「壁にもたれて立っ

て/立ち|、話を続けた。」のように、継起か付帯状況かが意味的にあいまいになり、第1中止形に置き換えることができるものは集計に含めた<sup>2)</sup>。

### 4.3 調査結果

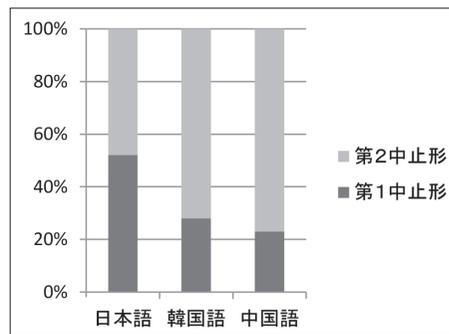
#### 4.3.1 全体の概観

表1は動詞・肯定形の第1中止形、第2中止形の出現度数及びそのパーセンテージである。表2をグラフ化したものが、グラフ1である。

【表2】母語別第1・第2中止形の使用率

対象者 \ 形式	第1中止形 (～シ)	第2中止形 (～シテ)
日本語母語話者	405 (52%)	379 (48%)
韓国語母語学習者	239 (28%)	611 (72%)
中国語母語学習者	239 (23%)	788 (77%)

【グラフ1】母語別第1・第2中止形の使用率



グラフ1を見ると、日本語母語話者と学習者では大きな差が見られる。日本語母語話者の第1中止形の使用頻度の割合が中止形使用全体の半数を超えているのに比べ、学習者の場合は、韓国・中国いずれも2～3割程度に止まっている。つまり、書きことばにおいて、母語話者は学習者に比べて第1中止形の使用率が高く、また反対に学習者は第2中止形の使用率が高いという傾向があることがわかる。このような傾向は、先行研究で明らかにされていたことと重なる。

次にあげる表3は、表1の内訳の詳細を表したものであり、母語・タスク別に見た二つの中止形の使用頻度とその割合を示している。この表においては、読み手を基準とし「疎遠」「親しい」「不特定」というグループでタスクを並べた。網掛け部分が割合の数字である。

【表3】動詞第1中止形・第2中止形の母語・タスク別使用頻度

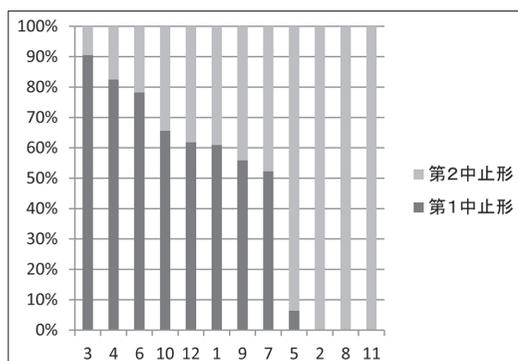
タスク 番号	タスク内容/読み手	日本語母語話者				韓国語母語学習者				中国語母語学習者			
		第1中止	第2中止	第1中止 (%)	第2中止 (%)	第1中止	第2中止	第1中止 (%)	第2中止 (%)	第1中止	第2中止	第1中止 (%)	第2中止 (%)
(1)	図書(上)	14	9	61%	39%	3	29	9%	91%	7	22	24%	76%
(4)	奨学金(上)	33	7	83%	18%	29	18	62%	38%	33	33	50%	50%
(7)	観光(上)	23	21	52%	48%	7	30	19%	81%	15	40	27%	73%
(10)	意見(上)	21	11	66%	34%	12	18	40%	60%	13	27	33%	68%
(2)	図書(友)	0	13	0%	100%	0	19	0%	100%	0	19	0%	100%
(5)	手紙(友)	6	88	6%	94%	14	101	12%	88%	20	125	14%	86%
(8)	出来事(友)	0	53	0%	100%	0	78	0%	100%	2	88	2%	98%
(11)	意見(友)	0	14	0%	100%	1	25	4%	96%	2	9	18%	82%
(3)	グラフ	48	5	91%	9%	36	31	54%	46%	31	25	55%	45%
(6)	投書	36	10	78%	22%	29	21	58%	42%	13	44	23%	77%
(9)	料理	57	45	56%	44%	39	98	28%	72%	41	142	22%	78%
(12)	七夕	167	103	62%	38%	69	143	33%	67%	62	214	22%	78%
合計		405	379	52%	48%	239	611	28%	72%	239	788	23%	77%

以下、タスクと二つの形式の使い分けの傾向を探るため、「どのタスクで第1中止形が用いられているか」、「読み手の親疎関係との相関について」、「読み手が不特定な場合について」、「学習者の日本語のレベル差との相関について」という順で見えていくこととする。

#### 4.3.2 どのタスクで第1中止形がより使われているか

母語別に、どのタスクで第1中止形がより使われていたかを見てみる。まず、日本語母語話者について、中止形使用のうち、第1中止形の使用率が高いものから降順に並べると、グラフ2のような結果になった。グラフの横軸の数字は、タスク番号を表す。

【グラフ2】日本語母語話者の使用率



第1中止形の使用率が最も高かったものは、〈タスク3〉グラフ説明であった。次いで〈タスク4〉学長への意見文、〈タスク6〉新聞への意見投書、と続く。〈タスク7〉から〈タスク5〉に移るところで量的に大きな変化がある。〈タスク5・2・8・11〉は、読み手が親しい友人宛に書かれたものであり、これらは〈タスク5〉を除けば全て第2中止形が使用されている。

後にみる学習者と比較し、特に特徴的なことは、〈タスク1〉先生への図書貸与依頼での第1中止形の使用率の高さである。次のような使用が多く見られた。

- (4)a. この度はお伺いしたいことがありメールを送らせていただきました。(task\_01\_J001日本語)
- b. 今回、『環境学入門』という本をお借りできないかと思い、連絡を差し上げた次第であります。(task\_01\_J003日本語)
- c. 『環境学入門』という本を授業のために使いたいと考え、図書館で探したところ、田中先生の研究室にあることが分かりました。(task\_01\_J003日本語)

また、第2中止形の使用も9例あったが、そのうち4例は次のような丁寧形のものであった。

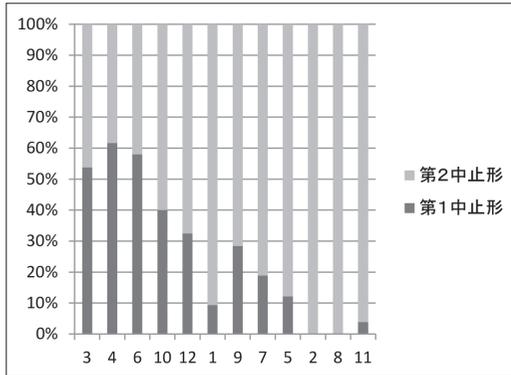
- (5)a. 本日、田中先生にお願いがありまして、メールさせていただきました。(task\_01\_J016日本語)
- b. この本は図書館にはなく、田中先生がお持ちでいらっしゃることを聞きまして、よろしければお借りできないかと思い、ご連絡させていただきました。(task\_01\_J018日本語)

友人など、読み手が親しい関係であり、メールで書く設定の〈タスク2・8・11〉は、第1中止形の使用が1件も現れていない。ただし、親しい相手(後輩)に手紙を書く想定(タスク5)には、第1中止形の使用も見られる。親しい相手にはあるが、手紙文であること、相談内容に答えるという真摯な態度が必要になることが影響していると考えられる。以下、例をあげる。

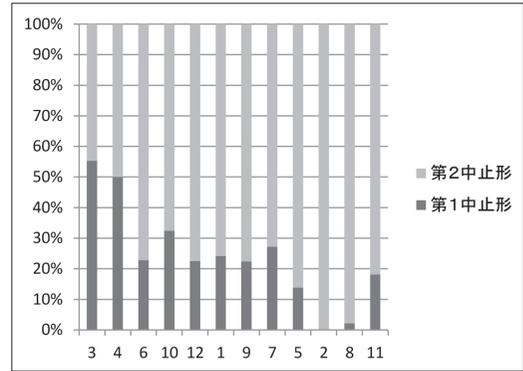
- (6)a. 交通事故に遭い、2ヶ月近くも入院していると聞きました。(task\_05\_J003日本語)
- b. そこから、私は、何かすっきりした気持ちになり、卒業論文も無事に提出することができました。(task\_05\_J003日本語)
- c. あなたも、焦らず、今の状況をしっかりと受けとめ、やれることから、やっていって下さい。(task\_05\_J003日本語)

次に学習者について見てみる。グラフ3は韓国語母語学習者、グラフ4は中国語母語学習者のものである。横軸のグラフの数値はタスク番号であり、その並びは便宜的に、先に見た日本語母語話者(グラフ2)の順番と揃えてある。そうすることで、母語話者と比較した時の学習者の特徴を見てみたいと考える。

【グラフ3】韓国語母語学習者の使用率



【グラフ4】中国語母語学習者の使用率



まず、韓国語母語学習者についてであるが、第1中止形の使用率の高いものの上位5つのタスクは、母語話者と重なっており、〈タスク4〉学長への意見文、〈タスク6〉新聞への意見投書、〈タスク3〉グラフ説明と続く。母語話者との違いは、全体として第1中止形の使用率が低いこと他に、特に、先生への図書貸与依頼である〈タスク1〉について、第1中止形の使用率が9パーセントと低いことが特徴的である。〈タスク4〉学長への意見文では6割を超える第1中止形の使用があるため、同じ目上であっても読み手の違いによる差は、母語話者より大きく開いている。これが読み手の違いのみによるものなのか、図書貸与の依頼文と奨学金増額の意見表明を含んだ依頼文との違いによるものなのかは、ここでは断定できないため引き続き考察を続けたいと考える。

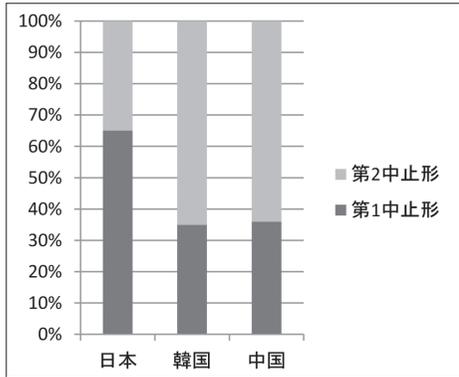
続いて、中国語母語学習者の場合、全体的に、韓国語母語学習者と比較してもさらに第1中止形の使用率が低くなっている。中止形が多く用いられたタスクの上位は、〈タスク3〉グラフ説明、〈タスク4〉学長への意見文、〈タスク10〉先生への意見文、である。〈タスク8・2〉の友人へのメールを除くと、中間に位置するものはいずれも2〜3割の使用に止まっていることが特徴的である。なお、〈タスク11〉について、グラフ上、他に比べて第1中止形の使用が高くなっているが、このタスクにおける動詞中止形の使用例が全11例と他のものより少なかったことによる。

#### 4.3.3 読み手の親疎関係との相関について

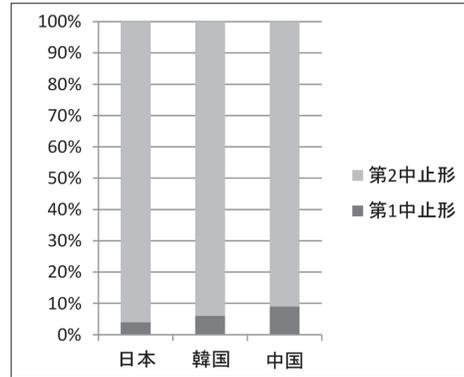
ここでは、「先生」や「学長」といった疎遠（目上）である読み手に対して書いた文章と、「友人」や「同僚」といった親しい関係の読み手に対して書いた文章とでは、どのような違いがあるかについて見る。

グラフ5は、疎遠（目上）である読み手に対して書かれたもの、すなわち〈タスク1・4・7・10〉の件数を合計し、母国語別に集計した結果である。一方、グラフ6は、親しい（同僚・友人）を呼び手として書かれた〈タスク2・5・8・11〉についてのものである。

【グラフ5】 疎遠（目上）



【グラフ6】 親しい（友人）



グラフ5では、日本語母語話者の第1中止形の使用率が高くなっており、6割を超える。一方、学習者の場合は、韓国・中国とも4割以下であり、母語話者と比較すると、両形式の割合の比率が逆転している。ここから、母語話者は、疎遠（目上）の読み手の文章には、積極的に第1中止形を用いていることがわかる。一方、グラフ6によると、母語話者・学習者いずれも、第1中止形の使用は非常に少なく、ほぼ第2中止形が用いられていることがわかる。

学習者の文の中で、第2中止形を用いている文の中には少し不自然に感じられるものがある。次のような例は、第1中止形を用いた方が落ち着きが良いようである。

(7)a. 私は早期英語教育はあまり良くないかと思って反対します。(task\_10\_K009韓国)

b. 年齢が若い子供は、新しいものに対する好奇心に満たして、勉強したい気持ちが強いです。  
(task\_10\_C050中国)

また、親しい間で第1中止形が使われている例のうち、母語話者には見られなかった例、つまり、文末が常体である文の中で、中止節に第1中止形を取っていたものは、以下のようなものである。

(8)a. 今皆卒論と仕事の準備をしているから、李さんはきっと今ごろすごく不安だと思い、私も似っている経験があったから、その気持ちがよく分かる。(task\_05\_C002中国)

b. 自分のいとも小学校前に英語の幼稚園に通ってたけど、性格形成に何も問題なく、しかも英語によるプライドができ、これからの学校生活にもすごく役に立っていると聞いたわ。

(task\_11\_K035韓国)

c. 先週は特に業務が多くて鈴木さん体調悪そうだったけど、つい、カラオケ中に意識不明の重体で倒れ、病院に運ばれたんだけどやっと今日少し回復して、自分が病院に運ばれたことに気づいたらしい。(task\_08\_C049中国)

d. それで、鈴木が急救車に乗り、病院まで運ばれた。(task\_08\_C054中国)

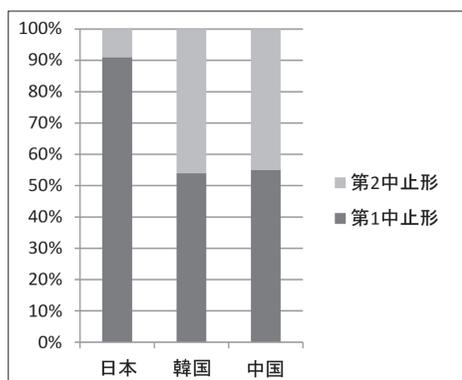
例文(8)a, b は、文全体からみて、この部分にのみ堅さが感じられる。例文(8)c, d は、いわゆる日記、あるいは報告書といったテキストであれば、違和感のないものであるが、親しい友人に向けて書く場合、堅さが現れるため若干の不自然さが感じられる。

#### 4.3.4 読み手が不特定な場合について

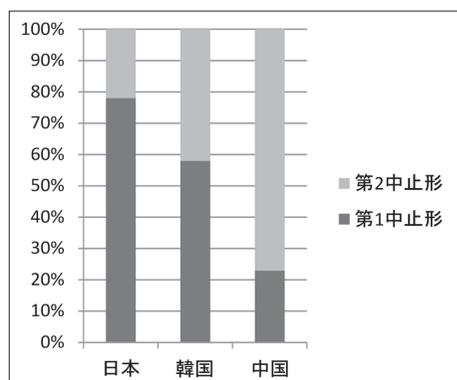
ここでは、不特定な読み手に対して書かれた文章について見てみる。本コーパスのタスクとしては、読み手が不特定な場合、レポート、新聞投書、昔話といったジャンルの異なる文章になっているため、それぞれをグラフに表した。

まず、〈タスク3〉グラフ説明の結果をグラフ7で、〈タスク6〉新聞への意見投書をグラフ8で示す。

【グラフ7】〈3〉グラフ説明



【グラフ8】〈6〉新聞への意見投書



〈タスク3〉の作文ではレポートの一部であるグラフの説明としての体裁が求められている。しかし、学習者の中には、次にあげるように第2中止形の使用の中で、レポートの文体としては不自然さを感じさせる文が見られた。

(9)2004年の時、デジタルカメラは100千台を販売していたが、2年間を経て、2006年販売量を激しい減下してしまって60千台をしか販売なかった。(task\_03\_C0020中国)

次に、〈タスク6〉新聞への意見投書のグラフ8についてみてみよう。このタスクは、病院閉鎖に対する反対意見や存続を求める要望を伝える、新聞投書の作文である。日本語母語話者は8割近くが第1中止形を用いているが、学習者になると半数を切り、中国語母語の学習者になると2割となって

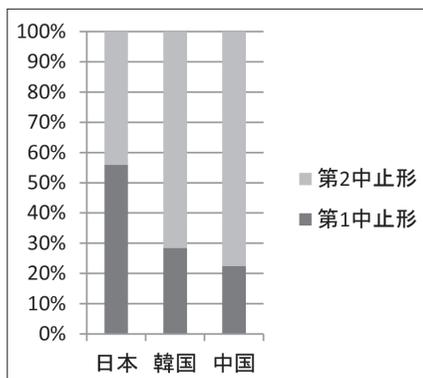
いる。

- (10)a. この病院が閉鎖されたら、この地区および近くの地区の住民にとって、大きな問題になって、大変不便になると思います。(task\_06\_C002中国)
- b. ちゃんとその原因を探して、改善法を検討したほうが良いと思います。(task\_06\_C003中国)
- c. 病院なんかを閉めたりして、区民の生活を不便にさせるのは、絶対間違いです。  
(task\_06\_C003中国)

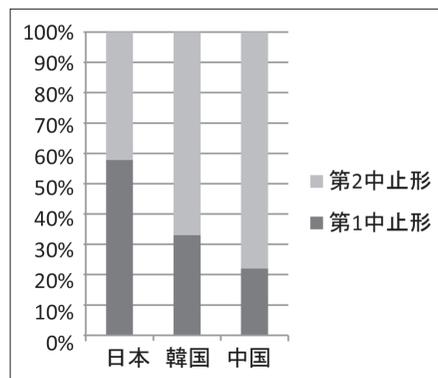
〈タスク6〉について、特に日本語母語話者と中国語母語話者の開きが大きくなった要因は何であろうか。一つの要因として可能性があるのは、「新聞投書」というものをどのように捉えていたかである。筆者は、ある中国人大学院生から、中国では日本の新聞における「投書欄」というものに該当するものはあまり無く、馴染みがないため、それほど「文体」を意識していないのではないかと、というコメントを得た。実際に「新聞投書」をどのようなイメージで捉えて作文を書いたかは、フォローアップインタビューが必要になるだろう。ただ、中国語母語話者の作文の中には、書き出し部分が、「〇〇新聞社」「新聞社殿」になっているものや、「お忙しい所すいません」「はじめまして、〇〇と申します」というようなものが見られた。つまり、新聞社宛であったり個人宛のような書き方になっているものが複数存在していた。そのような、「新聞投書」に対する捉え方の違いが、文体に反映された可能性はある。なお、韓国語母語話者の場合、そのような例は「〇〇新聞へ」というものが1例しか現れなかった。

次に、グラフ9で〈タスク9〉代表的な料理についての紹介、グラフ10で〈タスク12〉昔話（七夕）について見てみる。

【グラフ9】〈9〉料理紹介



【グラフ10】〈12〉昔話（七夕）



日本語母語話者においては、第1中止形が第2中止形の使用を上回る結果となっているが、先に見

たグラフ7、グラフ8における第1中止形の使用率よりは、低くなっている。二つのグラフを見ると、母語別の第1中止形使用率が似た傾向を示している。これは、料理紹介、昔話紹介といった、比較的柔らかい書きことばであることが共通していることが関わっていると考えられる。保田ほか (2012) によると、書きことばであるが、語りかけている印象を与える表現があり、それを「語りかけ性」(p.43)と呼んでいる。保田氏らによる『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)を用いた調査によると、「語りかけ性」を有するものには啓蒙書や指導書のほかに、昔話やいわゆるハウツーものがあることが明らかにされており、料理紹介と昔話には共通点があると言える。

日本語母語話者が用いた中止形の例文を〈タスク9〉より挙げる。

#### 第1中止形

- (11)a. お米は十分にとぎ、分量よりやや少なめの水を入れ、30分以上浸します。(task\_09\_J009日本)  
 b. 作り方は、そばの実を乾燥させてつぶしたものを水等と混ぜ合わせながら薄くのばし、更に折りたたんだものを専用の包丁で細く切り、麺を作ります。(task\_09\_J026日本)

#### 第2中止形

- (12)a. そしてわさびを少しおいて、その上にさしみをのせて、さらに握ります。(task\_09\_J003日本)  
 b. 野菜に味がしみてとっても美味しいですよ。(task\_09\_J028日本)

観察してみると、第1中止形を中心に用いる人、第2中止形を中心に用いる人、どちらも同じ割合で出現する人、といったように個人差が見られる。しかし、比較的軟らかい書きことばの文章において、第1中止形の使用率が高いというのは、日本語母語話者の特徴であると指摘できる。

学習者はいずれも、第2中止形の使用が7割を超えている。このタスクは、不特定の読み手に向け書かれたたものではあるが、第2中止形の使用が第1中止形を大きく上回る結果となっている。

以上、読み手が不特定な場合について見てきた。日本語母語話者については、いずれのジャンルについても、第1中止形の使用率が高いが、特にグラフ説明というレポートについてはそれが徹底されていた。一方、学習者には、レポートの文に関しては文体に配慮する意識があることが窺えるが、その他のものについては母語話者とは大きく開きが出ていた。特に、中国語母語学習者の場合はそれが顕著で、第2中止形の使用が中心となっていることがわかった。

以上、読み手が不特定な場合のタスクについて個別に見てきた。読み手が不特定な場合といっても、それぞれのテキストにはレポートのような論説文から、「語りかけ性」が強く現れる傾向のある料理紹介や昔話といったものまであり、個々についてはさらに深く分析する必要がある。

#### 4.3.5 学習者の日本語のレベル差との相関について

「YNU書き言葉コーパス」では、書きことばのための独自の評価基準を決め、全作文を評価してい

る。その評価項目として、「《1》タスクの達成」「《2》タスクの詳細さ・正確さ」「《3》読み手配慮」「《4》体裁・文体」の四つが設定されており、それにより総合評価が行われている。

動詞の中止形の使用は、「文法」が含まれている「《2》タスクの詳細さ・正確さ」、また、その文章のスタイルにふさわしい文体か否かを見る「《4》体裁・文体」といった評価項目と関わってくるであろうが、最終的な評価判定は《1》～《4》によりが総合的になされるため、文法や文体は評価を支える一部分であるといえる。

以上のような観点からの総合評価によって、学習者は、上位群・中位群・下位群の3つのグループ(各10人)に分けられている。このコーパスに参加している留学生は、一般的に上級とされるレベルであるが、さらにその中でのレベル差をグルーピングしていることになる。ここでは、その学習者の日本語のレベル差が動詞中止形の現れ方とどう関連しているのかについて見ておきたい。学習者の動詞中止形の使用率を、母語別・レベル別に集計したものが表4になる。

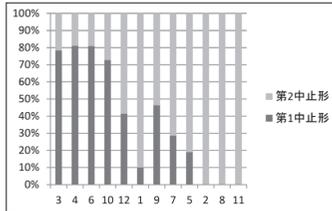
【表4】母語別・レベル別の動詞第1・第2中止形の使用率

タスク	上位群						中位群						下位群											
	韓国			中国			韓国			中国			韓国			中国								
	第1中止	第2中止																						
(1) 図書上	1	9	10%	90%	4	4	50%	50%	2	11	15%	85%	2	9	18%	82%	0	9	0%	100%	1	9	10%	90%
(2) 図書友	0	3	0%	100%	0	11	0%	100%	0	10	0%	100%	0	4	0%	100%	0	5	0%	100%	0	4	0%	100%
(3) グラフ	18	5	78%	22%	11	3	79%	21%	12	13	48%	52%	17	9	65%	35%	6	13	32%	68%	3	13	19%	81%
(4) 奨学金	17	4	81%	19%	15	14	52%	48%	10	8	56%	44%	14	10	58%	42%	2	6	25%	75%	4	9	31%	69%
(5) 手紙友	7	30	19%	81%	10	38	21%	79%	7	36	16%	84%	8	34	19%	81%	0	35	0%	100%	2	53	4%	96%
(6) 投書	21	5	81%	19%	6	13	32%	68%	7	6	54%	46%	3	14	18%	82%	1	10	9%	91%	4	17	19%	81%
(7) 観光上	4	10	29%	71%	4	12	25%	75%	3	11	21%	79%	8	20	29%	71%	0	9	0%	100%	3	8	27%	73%
(8) 出来事友	0	26	0%	100%	1	21	5%	95%	0	26	0%	100%	1	31	3%	97%	0	26	0%	100%	0	36	0%	100%
(9) 料理	25	29	46%	54%	14	34	29%	71%	12	41	23%	77%	20	51	28%	72%	2	28	7%	93%	7	57	11%	89%
(10) 意見上	8	3	73%	27%	5	5	50%	50%	4	9	31%	69%	3	15	17%	83%	0	6	0%	100%	5	7	42%	58%
(11) 意見友	0	11	0%	100%	1	3	25%	75%	1	7	13%	88%	1	1	50%	50%	0	7	0%	100%	0	5	0%	100%
(12) 昔話	36	51	41%	59%	41	73	36%	64%	30	47	39%	61%	19	65	23%	77%	3	45	6%	94%	2	74	3%	97%

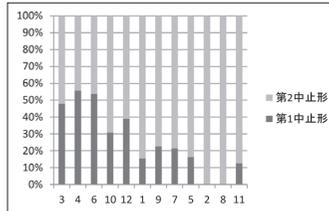
この表をもとに、横軸を4.3.2における日本語母語話者のグラフに揃え、母語別・レベル別に6つのグラフにして以下に示す。それぞれ、グラフ11・韓国上位群、グラフ12・韓国中位群、グラフ13・韓国下位群、グラフ14・中国上位群、グラフ15・中国中位群、グラフ16・中国下位群、である。

これらのグラフを概観すると、韓国語母語学習者・中国語母語学習者いずれにおいても、レベルが上がるにつれ、第1中止形の使用率が上がっていることが分かる。特に、韓国語母語話者の上位群のグラフについては、〈タスク1〉の第1中止形使用率の低さを除けば、概ね、4.3.1で見たグラフ2の日本語母語話者のものと似た傾向を示している。よって、第1中止形の使用量は、日本語のレベル差と相関しており、第1中止形の使用が多いことは、一般的な上級学習者とされるグループの中でも、さらに上位群に特徴的なものであると指摘できる。

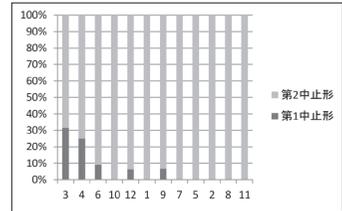
【グラフ11】 韓国・上位群



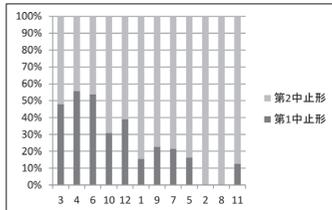
【グラフ12】 韓国・中位群



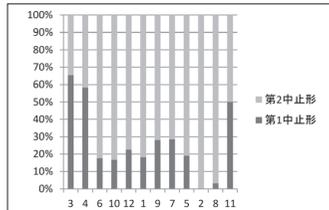
【グラフ13】 韓国・下位群



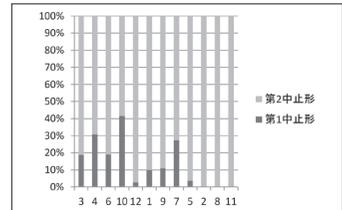
【グラフ14】 中国・上位群



【15】 中国・中位群



【16】 中国・下位群



## 5. まとめと今後の課題

本稿では、「YNU書き言葉コーパス」の日本語母語話者及び日本語学習者のデータを用い、動詞第1中止形と第2中止形の使用実態について調べた。その結果、以下のようなことが明らかになった。

- ①日本語母語話者は、学習者に比べて全体的に第1中止形を用いる傾向が強い。中止形全体に占める第1中止形の使用率は日本語母語話者の場合、5割を越えるが、上級日本語学習者の場合、その半分に近い2割～3割にとどまっている。
- ②タスク別に見て、日本語母語話者は読み手が疎遠（目上）であるか、親しい関係であるかといった点によって両中止形を使い分ける顕著な傾向が見られた。すなわち、読み手が疎遠（目上）である場合は第1中止形を積極的に用い、読み手が友人など親しい間柄の場合は、第2中止形を用い、第1中止形を交えることは見られない。
- ③読み手が不特定な場合、レポート、新聞投稿といった書き手が改まった態度で書くタスクについて、学習者については、レポートの場合は第1中止形使用への意識が窺えるが、日本語母語話者の積極的な使用に比べると大きな差があることがわかった。料理紹介や、昔話といった丁寧体が多用される比較的柔らかい書きことばの文体においても、その傾向が見られた。
- ④上級日本語学習者の中でも、さらに上位群・中位群・下位群とレベル分けした際に、上のレベルに行くほど第1中止形の使用率が高くなり、日本語母語話者の使用の特徴と近づくことが明らかになった。

①については、既に先行研究で傾向が明らかにされていたことであったが、②～④については、本稿の調査にて明らかになったことである。

残されている課題も多い。まず、今回は動詞の中止形の二つの形式のみについて集計したが、否定形や、他の品詞についても質的な観点も加え、引き続き調査を進めなければならない。また、1文中に第1中止形・第2中止形の両方が用いられている場合についても、どのような傾向があるのを見なければならぬ。さらに、母語による中止形使用への影響についても田代(1995)で指摘されていた点を含め、韓国語と中国語の特徴がどのように反映されているかを検証する調査が必要であろう。

以上の点に注目して、引き続きデータを分析し記述を進めていきたいと考えている。最終的にそれらを踏まえ、日本語母語話者と日本語学習者による述語中止形の使用傾向の違いを明らかにし、教育現場に還元できるようにしたい。

### 【注】

- 注1) 被調査者の日本語能力試験の結果についての情報は、韓国語母語話者の場合、30名中19名が1級(N1を含む)合格者、3名が2級(N2を含む)合格者である。また、中国語母語話者の場合は、30名中25名が1級合格者、3名が2級合格者となっている。
- 注2) 今回、集計から除いたものには、ほかに次のようなものがある。①「[[名詞]++であって/[名詞]++であり]」の形のもの。②「私も将来が不安になったから大丈夫かなあと思って。」のように、言いさしになっているもの。③「~てから」「~て以来」「~てか」「~ての」のように、第2中止形が助詞等と複合化したもの。④「~により/~によって」「~に対し/~に対して」のような後置詞的な機能語。

### 【参考文献】

- 秋口まどか・鄭賢熙(2002)「初級・中級の日本語学習者の文章表現について—中国人留学生・韓国人留学生の事例—」『留学生センター紀要』5, 新潟大学留学生センター, pp. 51-59
- 石川慎一郎(2012)『ベーシックコーパス言語学』ひつじ書房
- 市川保子(2007)『中級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク
- 加藤陽子(1995)「テ形節分類の一試案 従属度を基準として」『世界の日本語教育5』pp. 209-224, 国際交流基金
- 金澤裕之編(2014)『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』ひつじ書房
- 言語学研究会(1989 a)「なかとどめ—動詞の第二なかとどめの場合—」『ことばの科学3』pp. 11-47, むぎ書房
- (1989 b)「なかとどめ—動詞の第一なかとどめの場合—」『ことばの科学4』pp. 163-179, むぎ書房
- 鈴木重幸(1978)『日本語文法・形態論』むぎ書房
- 高橋太郎ほか(2005)『日本語の文法』ひつじ書房
- 津留崎由紀子(2003a)「形容詞の中止形を用いた複文における先行句節と後続句節の関係」『日本語科学13』pp. 7-32, 国立国語研究所
- (2003b)「日本語教育における中止形の指導と日本語研究」『国文学解釈と鑑賞』68(7) pp. 144-152, 至文堂
- 友松悦子(2008)『小論文への12のステップ』スリーエーネットワーク
- 二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子(2009)『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会
- 仁田義雄(1995)「シテ形式をめぐる」『複文の研究(上)』pp. 87-126, くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編(2008)『現代日本語文法6』第11部複文, くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編(2009)『現代日本語文法7』第12部談話, くろしお出版
- 林雅子(2005)「動詞テ形と連用形の使用に関する計量的調査研究—中級以上の作文・小論文指導のために—」『龍谷大学留学生センター研究年報』第14号, pp. 15-23
- 益岡隆志(2014)「日本語の中立接続とテ形接続の競合と共存」『日本語複文構文の研究』pp. 521-542, ひつじ書房
- 保田祥・柏野和佳子・立花祥子・丸山岳彦(2012)「「語りかけ性」を有すると判断される書きことばの表現」『第2回 コーパス日本語学ワークショップ 予稿集』, pp. 43-50 国立国語研究所